



J.Fukuda

## サマースプリントシリーズ

### THE KEENELAND CUP

### 第20回 キーンランドカップ (GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着  
本 賞 43,000,000円 17,000,000円 11,000,000円 6,500,000円 4,300,000円  
付加賞 560,000円 160,000円 80,000円



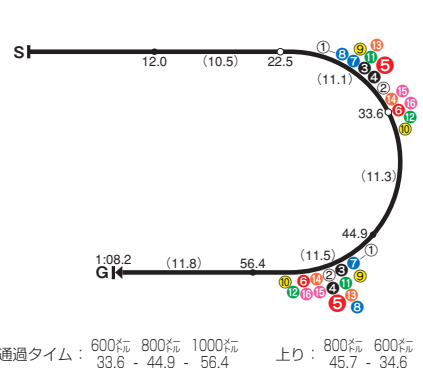
レース映像は  
コチラでご覧  
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬  
負担重量 3歳55<sup>+</sup>・4歳以上57<sup>+</sup>、牝馬2<sup>+</sup>減、2024.8.17以降GⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2<sup>+</sup>増、  
牝馬限定GⅠ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1<sup>+</sup>増、2024.8.16以前のGⅠ競走(牝馬限定  
競走を除く)1着馬1<sup>+</sup>増(ただし2歳時の成績を除く)

2025.8.24 札幌 晴・良 芝1200m (国際) (確定)

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位 (600m)	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑤	パンジャタワー	牡	3	57	松山弘平	1:08.2	8-7	33.9	488(+8)	5.5②	橋口慎介(栗東)	115
2	⑥	ベアボルクス	牡	4	57	松若風馬	¾	3-3	34.4	476(-4)	7.3④	梅田智之(栗東)	109
3	④	カルプスベルシュ	牡	3	53	横山武史	½	3-3	34.6	480(+20)	5.7③	石坂公一(栗東)	104
4	⑤	ナムラクラ	牝	3	53	浜中 俊	¾	5-5	34.4	486(+12)	12.3⑧	長谷川浩大(栗東)	104
5	⑩	ウインカーネリアン	牡	8	57	三浦皇成	ハナ	1-1	34.8	512(-)	5.4①	鹿戸雄一(美浦)	
6	④	カルロヴェローチェ	牝	5	57	佐々木大輔	ハナ	5-5	34.4	490(-10)	19.1⑨	須貝尚介(栗東)	
7	④	エーティマクウィ	牡	6	57	戸崎圭太	クビ	8-7	34.2	466(-4)	11.4⑦	武 英智(栗東)	
8	⑪	ブルバレイ	牝	6	57	K.ティーン	1¼	10-10	34.2	496(-2)	80.4⑬	須貝尚介(栗東)	
9	⑨	モリノドリム	牝	6	55	C.ルメール	½	13-14	34.1	496(+2)	9.3⑤	鹿戸雄一(美浦)	
10	②	フィオリア	牝	4	55	坂井瑠星	クビ	2-2	35.1	466(+0)	28.0⑬	西園正都(栗東)	
11	③	レイピア	牡	3	55	北村友一	1¼	10-10	34.5	510(+8)	9.7⑥	中竹和也(栗東)	
12	⑦	クファシル	牡	5	57	A.パデル	½	13-14	34.4	490(-6)	35.0⑩	池添 学(栗東)	
13	⑬	ジョーメッドヴィン	牡	4	57	松岡正海	クビ	10-10	34.7	514(+2)	90.5⑭	清水久嗣(栗東)	
14	②	エトヴブレ	牝	4	55	丹内祐次	アタマ	7-7	35.1	484(+18)	52.6⑫	藤岡健一(栗東)	
15	⑧	ソニンニヒ	牡	7	57	武 豊	½	15-10	34.4	484(+10)	30.4⑪	池江泰寿(栗東)	
16	①	ツインクルトーズ	牝	5	55	古川吉洋	3¼	16-16	34.7	514(±0)	176.3⑮	牧 光二(美浦)	

単勝⑤560円(2<sup>+</sup>) 複勝⑤230円(3<sup>+</sup>) ⑥250円(4<sup>+</sup>) ⑦220円(2<sup>+</sup>) 枠連③-③2,980円(9<sup>+</sup>)  
馬連⑤-⑥2,870円(10<sup>+</sup>) ワイド⑤-⑥1,170円(13<sup>+</sup>) ⑤-⑦690円(2<sup>+</sup>) ⑥-⑦1,050円(8<sup>+</sup>)  
馬単⑤-⑥4,670円(13<sup>+</sup>) 3連複⑤-⑥⑦6,780円(10<sup>+</sup>) 3連単⑤-⑥⑦30,510円(55<sup>+</sup>)



通過タイム : 600m 800m 1000m  
33.6 - 44.9 - 56.4 上り : 800m 600m  
45.7 - 34.6

#### アラカルト

- ・松山弘平騎手はキーンランドC初勝利。JRA重賞は本年5勝目、通算53勝目。この勝利により史上7人目、現役では4人目となるJRA全10場重賞制覇を達成
- ・橋口慎介調教師はキーンランドC初勝利。JRA重賞は本年4勝目、通算8勝目
- ・タワーオブロンдон産駒はJRA重賞通算3勝目
- ・3歳馬の勝利は21年レイハリアに続く通算4回目
- ・非抽選馬 6頭(サウザンサニー、ティニア、ルージュラナキラ、レッドアヴァンティ、レッドヒルシューズ、ロートホルン)
- ・パンジャタワーはスプリンターズS(GⅠ)に優先出走できる

# パンジャタワー *Panja Tower*

牡 鹿毛 2022.2.21生  
北海道新ひだか町 チャンピオンズファーム生産  
馬主・株Deep Creek 栗東・橋口慎介厩舎  
馬名意味・冠名+父名の一部

ソニンクGB系 B3

タワーオブロンドン 鹿毛 2015	Raven's Pass 栗毛 2005	Elusive Quality
		Ascutney
	スノーバインGB 芦毛 2010	Dalakhani
		Shinko Hermes
クラークスデール 黒鹿毛 2016	ヴィクトワールピサ 黒鹿毛 2007	ネオユニヴァース
		ホワイトウォーターアフェアGB
	アコースティクス 鹿毛 2001	Cape Cross
		ソニンクGB

5代までのインブリード：Machiavellian M4×M4 Mr.Pro prospector S5×M5×M5

## INTERVIEW

菅原通次専務取締役(チャンピオンズファーム)

### 期待通りの結果となりました

出走馬中、唯一のGⅠ馬でしたし、オーナーや我々はオーストラリアのゴールデンイーグルに向けていいレースが出来ればという思いで観戦していました。その期待通りの結果となりとても良かったです。橋口厩舎の方々をはじめ、この馬のことを熟知している松山騎手、そして我々も含めたチームが一丸となって、この秋の大目標に向かっていきたいと思っています。

Y.Maeda



この日は新馬戦以来のスプリント戦、57㌔の別定斤量を背負うこともあり、人気面では「半信半疑」の評価に甘んじた本馬だが、終わってみれば地方の違いは歴然としていた。外を回るロスを恐れず、自信満々にレースを運んだ松山騎手のリードに応え、初めて顔を合わせた古馬勢を難なく一蹴。ワールドオールスタージョッキーズの開催週とあって国際色に包まれた札幌から秋の目標に掲げる豪州のゴールデンイーグルに向け、順調な一歩を踏み出した。

NHKマイルCは9番人気での戴冠、この日は新馬戦以来のスプリント戦、57㌔の別定斤量を背負うこともあり、人気面では「半信半疑」の評価に甘んじた本馬だが、終わってみれば地方の違いは歴然としていた。外を回るロスを恐れず、自信満々にレースを運んだ松山騎手のリードに応え、初めて顔を合わせた古馬勢を難なく一蹴。ワールドオールスタージョッキーズの開催週とあって国際色に包まれた札幌から秋の目標に掲げる豪州のゴールデンイーグルに向け、順調な一歩を踏み出した。

## 父タワーオブロンドン

北海道日高町 ダーレー・ジャパン・ファーム有限会社生産 持込 中央、香18戦7勝(スプリンターズS<sup>GⅠ</sup>、京王杯スプリングC<sup>GⅡ</sup>、セントウルS<sup>GⅡ</sup>、京王杯2歳S<sup>GⅡ</sup>、アーリントンC<sup>GⅢ</sup>)、21年から供用  
〔代表産駒〕**パンジャタワー**(本馬)、**レイビア**(葵S<sup>GⅢ</sup>3着)、**アーリントンロウ**(小倉2歳S<sup>GⅢ</sup>3着)

## 母クラークスデール

北海道安平町 ノーザンファーム生産 不出走

タク(21 牡父デクラレーションオブウォーUSA)中央3戦0勝、地方17戦2勝  
**パンジャタワー** 本馬(22 牡父タワーオブロンドン)中央6戦4勝(NHKマイルC<sup>GⅠ</sup>、京王杯2歳S<sup>GⅡ</sup>、キーンランドC<sup>GⅢ</sup>)  
獲得総賞金229,230,000円  
(23 牡父デクラレーションオブウォーUSA)  
(24 牡父バイロUSA)  
(25 牡父アドマイヤマーズ)

## 祖母アコースティクス

北海道早来町 ノーザンファーム生産 不出走。20年用途変更

**ロジュニヴァース**(06 牡父ネオユニヴァース)中央5勝(日本ダービーJ<sup>KⅠ</sup>Ⅰ、弥生賞J<sup>KⅡ</sup>Ⅱ、ラジオNIKKEI杯2歳S<sup>J<sup>KⅢ</sup>Ⅲ</sup>Ⅲ、札幌2歳S<sup>J<sup>KⅢ</sup>Ⅲ</sup>Ⅲ、札幌記念G<sup>Ⅱ</sup>2着)、最優秀3歳牡馬、種牡馬  
ベンテシレイア(07 牝父ネオユニヴァース)中央2勝(栗島特別)、地方2勝、スティクス(知立S、汐留特別)の母  
トーセンバワフル(10 牡父ネオユニヴァース)中央1勝(萩S<sup>Ⅱ</sup>2着)、地方1勝  
クラークスデール(16 前出)  
アドマイヤザーゲ(18 牡父ドウラメンテ)中央3勝(宮崎特別、黄菊賞)

## 曾祖母ソニンクGB

不出走。01年輸入、12年死亡、**ノーザンリバー**(さきたま杯J<sup>KⅡ</sup>Ⅱ2回、東京盃J<sup>KⅡ</sup>Ⅱ、アーリントンC<sup>GⅢ</sup>、カペラS<sup>GⅢ</sup>、種牡馬)、**ランフォルセ**(浦和記念J<sup>KⅡ</sup>Ⅱ、ダイオライト記念J<sup>KⅡ</sup>Ⅱ、エルムS<sup>GⅢ</sup>、佐賀記念J<sup>KⅢ</sup>Ⅲ)、**ノットアローン**(若葉S<sup>Ⅱ</sup>、ラジオNIKKEI賞J<sup>KⅢ</sup>Ⅲ2着)、**モンローブロード**(ファンタジーS<sup>GⅢ</sup>2着)の母、**ディアドラ**(秋華賞G<sup>Ⅰ</sup>、ナッソーS・英G<sup>Ⅰ</sup>)、**ジュヌエコール**(デイリ一杯2歳S<sup>GⅡ</sup>)、**フリームファクシ** ㊦(きさらぎ賞G<sup>Ⅲ</sup>)、**リューベック** ㊦(若駒S・L)の祖母、**ソングライン**(安田記念G<sup>Ⅰ</sup>2回、ヴィクトリアマイルG<sup>Ⅰ</sup>、富士S<sup>GⅡ</sup>)、**スキルヴィング**(青葉賞G<sup>Ⅱ</sup>)の曾祖母

## 唯一のGⅠ馬が鮮やかに差し切り勝ち

サマースプリントシリーズの第5戦と位置付けられているキーンランドCだが、今年の中心勢力と目されたのはシリーズ初参戦の馬たち。4月のアルクオーツスプリントで2着に食い下がった古豪ウインカーネリアン、NHKマイルCの覇者パンジャタワー、1勝クラス戦から3連勝中の新星カルフスベルシュが、5倍台のオッズで1〜3番人気を分けた。この3頭を含め、ひと桁の単勝オッズを記録した馬が6頭を数えた混戦ムードを一掃したのは、出走馬中唯一のGⅠウイナー。3歳マイル王パンジャタワーが格の違いを見せつけ、鮮やかな差し切りを飾った。先手を主張したウインカーネリアン

にフィオライアが競りかけ、2頭が雁行してレースを先導。前半600㌔の通過は33秒6と水準級のラップが刻まれていくなか、カルフスベルシュは3番手の外を進む。5番枠を引いたパンジャタワーの松山弘平騎手は、隣枠6番のヘアポルックスが好位のインに収まったのに対し、中団馬群の外へ馬を誘導。いつでも動ける態勢を整えて仕掛けのタイミングを窺った。

迎えた直線、フィオライアを振り切り、いったんはリードを広げたウインカーネリアンだったが、残り200㌔地点を過ぎて失速。そこへヘアポルックス、カルフスベルシュらが襲い掛かる。とはいえ、4コーナーから徐々に差を詰め、加速にかかったパンジャタワーはそれらを凌駕する末脚を披露。内の先行勢を呑み込み、一気に先頭へ突き抜けた。